



【臨時レポート】

2024年8月2日

ご投資家の皆様へ

しんきんアセットマネジメント投信株式会社

弊社公募投資信託の基準価額の下落について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、弊社の公募投資信託の基準価額が2024年8月2日に大きく下落しましたので、その要因等について下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 基準価額および下落率（前日比で5%以上下落したファンド）

(2024年8月2日現在)

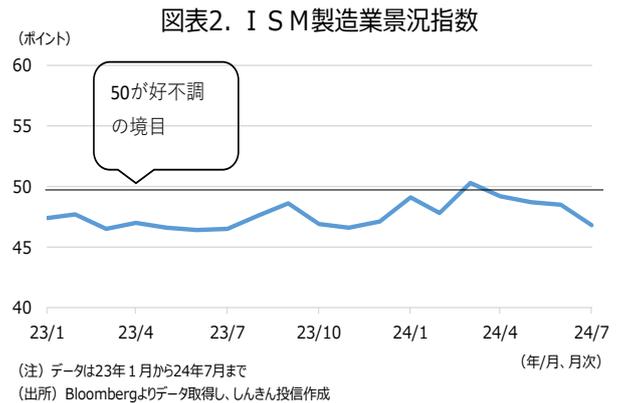
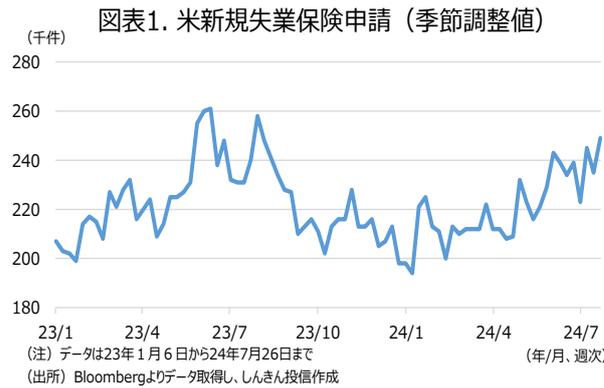
ファンド名称	基準価額 (円) 10,000 口当たり	前営業日比 (円)	下落率
しんきんインデックスファンド 225	26,024	▲1,591	▲5.76%
しんきんトピックスオープン	17,581	▲1,143	▲6.10%
しんきん好配当利回り株ファンド	28,593	▲1,624	▲5.37%
しんきん好配当利回り株ファンド（3ヵ月決算型）	9,741	▲555	▲5.39%
フコク SRI（社会的責任投資）ファンド	26,843	▲1,780	▲6.22%
しんきん SRI ファンド	12,478	▲826	▲6.21%
しんきん JPX 日経 400 オープン	21,124	▲1,393	▲6.19%
しんきん日経平均オープン	20,930	▲1,276	▲5.75%
しんきんノーロード日経 225	17,955	▲1,095	▲5.75%
しんきんフコク ESG 日本株式ファンド	16,939	▲1,114	▲6.17%
しんきん DC 日経 225 株式ファンド	18,130	▲1,105	▲5.74%
しんきん国内株式インデックス（投資一任用）	13,834	▲843	▲5.74%



2. 下落の要因

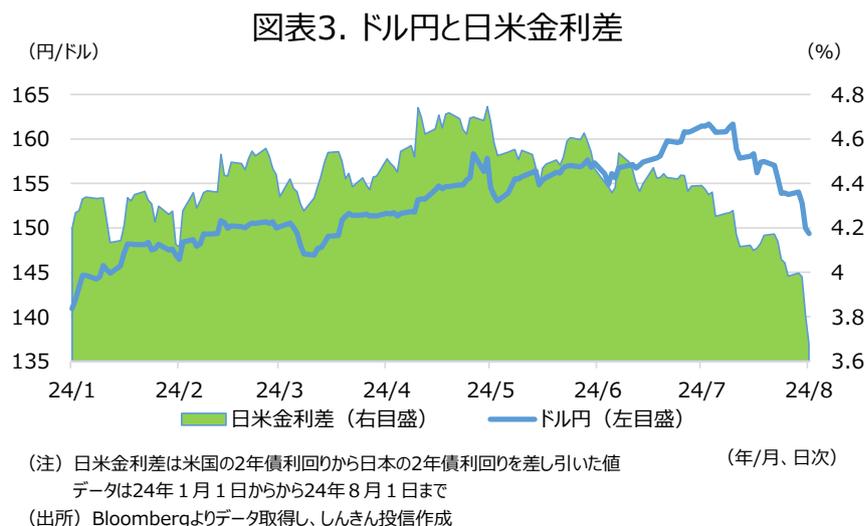
①米経済の減速懸念が高まったこと

8月1日に発表された米新規失業保険申請件数が増加し、米雇用の減速を示唆する内容となったことや米供給管理協会（ISM）製造業景況指数が市場予想を下回り、生産の弱さを示唆する内容となったことで米経済の減速懸念が高まり、ハイテク企業の株価を中心に米株式市場が軟調な動きとなったことが重しとなり、国内株を押し下げました（図表1,2）。



②円高が進行したこと

7月末の金融政策決定会合で日銀が国債購入減額や利上げを決めたことに加えて、植田総裁が追加利上げに前向きな発言をしました。一方、同時期に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）では、次回の9月会合の利下げに前向きな考えが示されました。日米の金融政策の方向性の違いから日米金利差が縮小したことを受けて、ドル円は2日には一時148円台までドル安・円高が進行しました。（図表3）。円高は輸出企業の業績の押し下げ要因となるため、日本株の下落につながっています。





3. 今後の展開の見通し

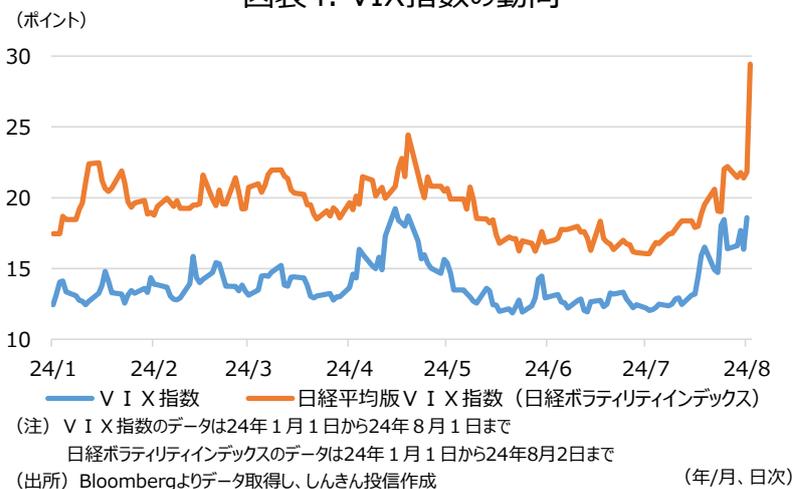
今週は日米の金融政策に関する会合があったほか、アップルやアマゾンなどの米主要ハイテク企業の決算発表もあり重要なイベントが目白押しでした。週末には米雇用統計が控えています。重要なイベントの結果への警戒感や結果発表を受けて、投資家心理が不安定になっていることが相場の変動性を高めているとみられます。実際に、投資家が市場の先行きに対して抱いている不安の大きさを示すVIX指数（S&P500指数を基に算出）が上昇しているほか、日経平均版のVIX指数も上昇しています（図表4）。

国内では来週、ソフトバンクグループ（決算発表 8/7）や半導体大手の東京エレクトロン（同 8/8）など主要企業の 4-6 月期決算発表が予定されていますが、それらが終わるとしばらく目立ったイベントは予定されていません。そのため材料出尽くしとなり、いったんVIX指数は低下することが予想され、少なくとも株価の下落には歯止めがかかることが期待されます。

また、先週海外投資家は先物と現物合わせて 1.5 兆円（うち先物は 1 兆円）、日本株を売り越しており、今週も同様な動きが継続していると予想されますが、先物による売りはいずれ買戻す必要があるため、今後株価は急反発することも期待されます。さらに、新しい少額投資非課税制度（NISA）を活用した個人投資家の買いや事業法人による自社株買いによるとみられる買いも継続しており、相場を支えるとみられます。

ただ、米経済が一段と減速し、米国の経済成長率がマイナスに落ち込むことになると、日米の企業業績は悪化することになり、株価は軟調な動きが続く恐れがあります。株価は今後も、米経済動向に振られる展開が予想されます。

図表4. VIX指数の動向



以上



＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、請求目論見書については、販売会社にご請求いただければ、当該販売会社を通じて交付いたします。

【お申込みに際しての留意事項】

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

（お客様に直接ご負担いただく費用）

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

（保有期間中に間接的にご負担いただく費用）

- ◆ 運用管理費用（信託報酬）・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託に係る上記費用（手数料等）の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくお読みください。

- ※当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。